

8月21日

おとしより・障がい者スポーツ大会

スポーツセンターにて、「第42回おとしより・障がい者スポーツ大会」（上士幌町社会福祉協議会主催）が開催されました。

町内の各老人クラブやNPO法人サポートセンター白樺から約200名が参加し、4チームに分かれて、全11種目を競いました。

また、競技の合間には「幼児競争」が行われ、上士幌保育所の園児と参加者が協力してゴールを目指しました。



8月27日

「コケの森」認定く然別風穴地帯・東雲湖く

本町と鹿追町にまたがる「然別湖周辺の風穴地帯と東雲湖」が、日本蕨苔類学会から、道内としては初となる「日本の貴重なコケの森」に認定されました。然別湖の周辺は、数万年前の火山活動によって形成



8月30日

嶋木遺跡発掘現場説明会

された広大な風穴地帯となっており、エゾナキウサギや高山植物など、貴重な動植物の宝庫となっています。特に、東雲湖（写真）や駒止湖へと続く歩道、東又プカウシヌプリの登山道には、ゴレツミズゴケなどの希少なコケ類の群落が見られ、美しく神秘的な景観を有しています。



黒曜石の石器が披露され、を観察していました。

今年で5回目となる嶋木遺跡の発掘調査現場説明会・見学会が行われ、町内外から16名が参加しました。

説明会では、調査チームのリーダーである首都大学東京の出穂准教授が、この4年間の調査・研究成果を説明し、「出土した炭を年代測定した結果、2万6千年前であることが分かった」と近況を報告しました。説明会後は、発掘された見学者は興味深そうに形状

第28回ツール・ド・北海道2014

国内最大規模の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道」が9月13日（土）に開幕し、十勝を中心に、抜きつ抜かれつの熱戦が繰り広げられました。

最終日となる15日（月）には、本町もコースとなり、多くの選手たちが秋晴れの十勝平野を疾走しました。



8・9月の まちのわだい

「まちのわだい」のコーナーでは、みなさんからの楽しい話題や情報をお待ちしています。
企画財政課情報交流担当 ☎2-2111 内線265 または E-Mail ☞ kikakuzaiseika@town.kamishihoro.hokkaido.jp まで、お気軽にご連絡ください。

8月30日

上士幌町防災フェスティバル



9月1日の「防災の日」に合わせ、「第4回上士幌町防災フェスティバル」が山村開発センターにて開催されました。

この日は、災害用車両や防災用品の展示、災害用伝言サービス体験、建設業協会による住宅耐震診断・耐震補強工事相談が行われたほか、北海道教育大学の佐々木貴子教授（写真）による「家庭でできる防災」と題した災害対策についての講演が行われました。

佐々木氏は、災害がもし起きたらどうなるかをイメージし、「いざ」という時に備え、対応できるように普段から準備しておくことが重要だと述べました。

また、講演後には、豚汁とおにぎりの炊き出し実演が行われ、食事をしながら防災について話し合う姿が見られました。

8月31日

芸術鑑賞会『おさな星のうたたね』

山村開発センターにて、芸術鑑賞会（上士幌町芸術鑑賞会・教育委員会主催）が行われ、「劇団風の子」による、ミュージカル『おさな星のうたたね』が公演されました。

「劇団風の子」による公演は、昨年に引き続き2年連続となります。

この日、会場に集まった方々は約100名。冒険ファンタジーな演目に、子どもたちも「ドキドキするところ

もあって、とても面白かった」と、感想を述べてくれました。



9月6日

川村組が清掃ボランティア実施

株式会社川村組（川村文雄社長）が、恒例のふれあい公園・サクシユオルベツ川周辺の清掃ボランティアを実施しました。

商生涯学習まつりに合わせて毎年実施しているもので、同社の社員が草刈りとゴミ拾いを行い、辺りはすっかり綺麗になりました。



【全道大会出場を報告】 上小・上中卓球部、上高ソフトテニス部

9月3日（水）、北海道卓球選手権大会（6、7日・札幌市）に出場する町内の小・中学生3名が、教育委員会を訪れ、馬場教育長に意気込みを語りました。

また、11日（木）には、北海道高等学校新人ソフトテニス選手権大会（13日、14日・旭川市）へ出場する上士幌高校ソフトテニス部の部員3名が、同じく教育委員会を訪問し、大会での健闘を誓いました。



▲右2人目から、ソフトテニス女子シングルス出場の塩田文香さん。ダブルス出場の近間美穂里さんおよび神田菜奈さん。引率の山崎教諭。



▲右から馬場教育長、大野隆斗君（卓球個人戦13歳以下の部出場）、八重樫拓海君（同14歳以下の部）、大野隆貴君（同13歳以下の部）。

9月6日

ローンボウルズ大会



交通公園にて、ローンボウルズ大会が開かれました。ローンボウルズとは、芝生の上で、ボウルと呼ばれる偏心球を転がして目標球（ジャック）に近づけることを競うゲームです。参加者は重心が偏ったボウルと芝生の凹凸に苦労しながらも、目標に向かって熱心に投げ込んでいました。

9月7日

アイヌ伝統漁法「マレック漁」体験



東泉園にて、第22回マレック漁が行われました。マレック漁とは、鉄のかぎ針のついたヤリでサケを捕る、アイヌ民族の伝統漁法です。会場には、北門小学校の全生徒や一般の方など、約50名が参加しました。まず、会場内のチセ（伝統的民家）にて、火の神様へお祈りをする「カムイノミ」が行われ、シカ肉やサケトバなどを供物として捧げた後、園内にある池にてマレック漁体験が行われました。水の神様へのお祈りの後は、漁体験に先だって、上士幌アイヌ協会副会長である清水勇さんによる、マレック漁についてとその模範演技が行われました。

漁体験は、大人の方、子どもたちの順に行われました。北門小学校で一番最初に釣り上げた6年生の松尾 彪希くんは、「サケがすごく重くて、釣り上げるのが大変でした。舟も不安定だったので、ちょっとびっこりしました」と話してくれました。

9月7日

石川正裕さんの叙勲受章祝賀会



春の叙勲で旭日双光章を受章した石川正裕さんの記念祝賀会が、山村開発センターにて行われました。石川さんは、町議会議員を5期20年（うち議長を2期8年）務められ、本町の農業における産業振興など、地方自治の発展に多大な貢献をされました。会には、「家族や議会関係者、町内各団体の代表者ら総勢100名以上が出席し、石川さんの功績をたたえました。

9月6日

「ご長寿おめでと〜」平成26年度敬老会



「平成26年度敬老会」が山村開発センターで開催され、百寿（100歳）・米寿（88歳）・古稀（70歳）を迎えられたみなさん（対象者76名、出席者23名）をお祝いしました。

式典では、竹中町長から出席者へ敬老祝金が贈呈されたほか、フラサークル「モアナ・ラニ」によるフラダンスや、保育所年長児による歌とリズム体操が披露され、出席者は笑顔を見せました。

9月7日

上士幌保育所運動会



上士幌保育所にて、「ちびっこ大運動会」が開催されました。今年は、「むし・むし・わーるど」をテーマに、テントウムシやクワガタムシなどに扮しての競技が行われました。



認定こども園の建設中ということもあり、仮設グラウンドでの開催でしたが、園児たちの真剣な様子に父兄らも笑顔で観戦していました。

商工生涯学習まつり&消防フェスティバル

ふれあい公園にて、商工生涯学習まつりが開催されました。会場では、ステージイベントや屋台、恒例の綱引き大会など、多くの催しものが行われ、来場者を楽しませていました。

また、会場のとなりでは消防フェスティバルが開かれ、消火体験などを楽しむ子どもたちの様子が見られました。



▲消火体験(消防フェスティバル)



▲華麗なジャグリング(商工生涯学習まつり)



▲塗り絵コーナー(消防フェスティバル)



▲柔道少年団が2年連続優勝!(綱引き大会)

大雪山国立公園指定80周年特集

9月6日(土)、大雪山国立公園指定80周年記念式典(町、町観光協会、北海道地方環境事務所、十勝ふるさと市町村圏北ブロック実行委員会主催)が、糠平温泉文化ホールにて開催されました。

この日は来賓を含め約220名が出席し、国内最大規模となる豊かな自然環境への感謝と、今後もその大自然を保護し利用を促進していくことへの決意を新たにしました。

式典後には、脳科学者の茂木健一郎氏が「脳と大自然」をテーマに講演しました。茂木氏は、多様性を尊重できる社会こそが発展できる社会であると述べ、多様性の宝庫である自然を守っていく必要があると訴えました。

また、会場ロビーでは、大雪山国立公園の指定にいち早く取り組まれた元愛別村長・太田龍太郎展や大雪山国立公園の指定当時の歴史を振り返る新聞記事の展示、国立公園にゆかりのある食を再現した試食会などが実施されました。



▲式辞を述べる環境省自然環境局の江口博行総務課長



▲脳と自然について講演する茂木健一郎氏



▲関係者および一般来場者が一堂に会した記念式典の様子



▲大雪山国立公園に関する過去の新聞記事

また、7日(日)には、旭山動物園の元園長で北海道大学客員教授である小菅正夫氏が記念講演を行いました。小菅氏は、原っぱや池などの身近な自然を通して、子どもたちへ多様性の大切さを教えていくべきだと述べました。

講演後はウォーキングツアーが行われ、参加者約80名がぬかびら源泉郷周辺を散策しました。ウォーキングには、講師の小菅氏も参加し、参加者と自然について語り合いながら歩く様子が見られました。



▲自然環境教育の重要性について講演する小菅正夫氏



ウォーキングツアーの様子▶

地域を変えてく新しいカ

地域おこし協力隊活動報告

TITLE: ただいま、開店準備中です!

記: 元・商工観光推進員 井上 智彦



平成24年6月に上士幌に来てから2年あまり、短い期間でしたが、この8月末をもって役場を退職いたしました。初めての北海道生活、役場勤めの経験もないため、戸惑うことばかりでしたが、在任中は実に多くの方々にお会いでき、また多くのことを教えていただきました。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

退職後の最初の仕事は、9月6日(土)に行われた大雪山国立公園指定80周年記念イベントに、宝さがしの会として「食で振り返る大雪屋台」を出店し、昔の人たちが食べてきたものを再現し、試食してもらいました。また、9月14日(日)の商工生涯学習まつりにも、同じ趣旨で参加しました。

そして、今後の自分の活動の拠点として、お店を始めます。役場で「地産地消」事業に関わり、「ピザで町おこし」を提案したこともあり、それなら自分で「ピザ屋」を開業した方が話が早いと思ったからです。

店名は、「ピザとワインの店 パピリカ」です。「パピリカ」とは、アイヌ語で「豊作の年」という意味だそうです。ある農家さんに話したら、「それはビートの品種名。十勝の人にはなじみのある名前だよ」といわれ、十勝らしい名だと自信を深めました。

場所は、はげあん診療所の隣、元「一善」さんをお借りしました。開店は11月ごろの予定です。みなさまのご来店をお待ちしております。



▲「食で振り返る大雪屋台」の様子



▲この日、講演会の講師として来ていた脳科学者の茂木健一郎氏もご満悦の表情

上士幌高校新聞局 通信 月刊 上高



▲見事3位入賞し、大喜びの上高チーム

8月18日(月)、上士幌町で盆踊り大会が行われました。今年もたくさんのチームが参加し、多くの人たちでにぎわいました。

上士幌高校は、ハリーポッターの衣装をして踊り、盆踊りを見に来ていた子どもやお年寄りを楽しませていました。今回生徒が着用していた衣装や装飾品は、保護者の協力により制作したもので、完成度が高く出来上がっていました。

盆踊りに参加した上士幌高校の大河原先生は、「今回初めて参加してみても楽しかった。仕事の関係で踊りの練習を満足にできなかったが、本番では目立った失敗もなく踊れたので、終わったときには安心できた」と、笑顔で話してくれました。

上高チームの結果は、団体の部で3位に入賞し、生徒たちはとても喜んでいました。この結果について、渋川校長先生も「動きに若さがあり、練習をしていたときよりも当日の方が踊りの動きがよくなっていた」と語ってくれました。

8月18日(月)
上士幌町で行われた盆踊り大会

文責 坪井 稔樹

川柳

短歌

虫の声耳そばだてる旅の宿
 秋風で枯れ葉が空を乱れ飛ぶ
 カニ食べて函館の旅うまかった
 イモ掘りの作業につらい流す汗
 収穫とクマ出没で秋を知る
 収穫に家族の笑顔あふれてる
 夢のため苦勞惜しまず歩を進め
 我れ落ち葉落ちたところで生きていく
 女子多用何が目的国の主
 戦争と原発要らぬは夢の中
 一世紀近くを生きて地に還る

すずやかな秋の始めのこの季節一番好きと亡き母云いき
 夫君はアルツハイマー患いて苦勞せし友の突然の訃報
 障害の吾霧圍気の様気の重く施設の夫に会い行く日目を
 今朝の食頂きし茶蒸し食みつっ汝の理解の心うれしき
 鬱ゆえの無罪と云えり子を殺したる母あはれその子もあはれ
 はたと鴉昨日より居らず公園のみどり濃くして静もるいちにち

白桜波丹小鈴李米高米坂
 石 琉後池木大森木森田
 花若昭由 喜博誠真 いさ子
 馨絵菜次 希子 豊子 樹也 弓

本 高 石
 間 木 川
 栞 慶 裕
 風 子 子

平成26年 8 月末現在の人口

男 2,397人(-8)
 女 2,522人(-4)

人口 4,919人(-12)
 世帯数 2,333世帯(-8)

寄 付

▶Sky Solar Japan株式会社(東京都)代表取締役 陳鋭氏は、9月5日、町の振興資金として金10万円を寄付されました。

平成26年度 ふるさと納税寄付金

8 5,948 件
 月分 97,976,200 円

累計 17,629 件
 294,640,401 円

※全国より本町に篤志寄付の応援をしていただき心より感謝を申し上げます。

上士幌町民憲章

- 1 心もからだもきたえ、すこやかな人になりましょう。
- 1 おたがいに立場を理解しあい、楽しい家庭をつくりましょう。
- 1 きまりを正しく守り、明るい社会をつくりましょう。
- 1 自然を愛し、美しく住みよいまちにそだてましょう。
- 1 文化をたかめ、豊かな郷土を築きましょう。



◎大雪山国立公園指定80周年記念イベントを取材しました。
 ◎今日まで豊かな自然が保たれているのは、環境省や関係自治体、ボランティアなど、多くの人々の努力によるものだと知りました。◎現在、国立公園では紅葉が見頃を迎え始めています。みなさんも自然の恵みに感謝しつつ、紅葉狩り

に出かけてみては?・・・S
 ◎今年、初めて我が家のモモの木に6個の実がなりました。我が家あたりは、西風が強く、今もぜんぜん大きい木になっていません。それでも、今年は、頑張ってくれました。小ぶりではありますが、とても甘く、子どもたちも非常に喜んでくれました。・・・K

